

“Heart to Heart”

第18巻 第1号 (No.53)

発行日 2023年7月1日

心から心へ わちあう あたたかさ

武蔵野東教育センター所長
計野 浩一郎

特別支援教育施行17年

目次:	
特別支援教育施行17年	1
療育プログラムのようす	2/3
コラム: 教えてもらったこと (4) 言葉と意思	4
ご案内	4

2007年4月から「特別支援教育」が学校教育法に位置付けられ、従来の特殊教育の対象障害に、知的発達の遅れない発達障害も含めて、特別支援学校に限らずすべての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくこととなりました。施行から17年になり、言葉としては着実に浸透してきました。しかし、その捉え方には個人差や温度差があることは皆さんも感じていることだと思います。

そこで今回は、特別支援教育の理念と位置付けやその根底にある考え方について説明するとともに、私たちに求められていることについて考えたいと思います。

特別支援教育は、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を確認して伸ばし、学習や生活で抱える困難さを軽減し改善するための適切な指導や支援を行うことで、障害のある子どもの自立と社会参加をするための主体的な取り組みを支援する教育です。

近年「共生社会」という言葉を頻繁に耳にしますが、これは「性別や年齢、障害の有無にかかわらず、一人一人が積極的に参加・貢献できる社会」を指します。そのためにも、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える社会を目指していくことが求められています。そして、共生社会を実現するための手段の一つが「インクルーシブ教育システム」です。

日本が2014年1月20日に批准した「障害者の権利に関する条約(第24条 教育)」によれば、インクルーシブ教育システムとは、「人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可

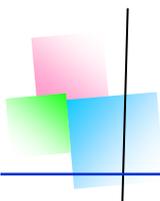
能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」のことです。そして、それを実現させるためには、①障害のある者が教育制度一般から排除されないこと。②自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること。③個人に必要な「合理的配慮」が提供されることが必要であるとされています。

そのために、それぞれ多様な個性を持つ人が同じ場で教育を受けることができる限り追及すること。個別の教育的ニーズのある児童に対して、そのニーズに応じた指導を提供すること。通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など連続性のある学びの場を用意することが必要になります。

しかし、理念や制度としてはそのようなもの、個に応じた主体的な学びが保障されていなかったり、区別したり、柔軟さに欠ける現状が散見されます。学校において個性豊かな子どもたちが共に学び合い生きる中で、公平性を確保しつつ社会の構成員としての基礎を作っていくことが重要です。そのためには、まず大人が形成している地域社会の理解を進め、子どもたちが人々との交流を通して、それぞれの地域で生活基盤を築けることが求められます。当センターとしても、一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加ができるようになるための支援を今後も続けていきます。

コロナが5類となった初めての夏休みです。感染予防を心掛けつつ有意義な体験の機会にしてください。





療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラムの様子】

音楽教室 エレキギターの音色が様々なエフェクターを介することでどのように変化するのかを体感し、音の歪ませ方・曲げ方・広げ方を学んでいます。リズム・メロディー・ハーモニーが音楽の三要素と言われていますが、それに加えて音色の変化を楽しむことができれば、演奏・鑑賞に取り組む際の景色がさらに広がるかもしれません。(平瀬戸)



音の変化にワクワク

キッズアート教室 折り紙を同じ形にたくさん折って、それらを組み合わせて作品にするユニット折り紙に挑戦しています。繰り返し練習していくと、角と角を合わせることや指先で折り目をなぞることが上手になり、自分の力で作業を進められるようになります。3枚でクマ、4枚でゾウやカタツムリ、そこから6枚、8枚と枚数を増やし、形の組み合わせを楽しみます。(本田)



「アイロンはゆっくりね」

リズムブ教室 ラバーリングを使い、両足を揃えてゲージャンプをする練習に取り組みました。最初は、1回のジャンプだけで精一杯だった子ども達ですが、リングの色や配置を手がかりに連続跳びができるようになってきました。今度は太鼓の音に耳を傾け、リズムに合わせて跳べるように練習していきます。(高橋)



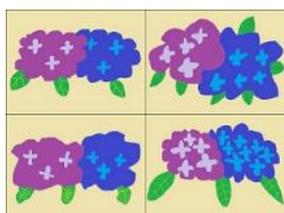
ジャンプ、ジャンプ、ジャンプ！

体育教室 小学3年生以上の体育教室では竹馬を行っています。竹馬に乗って歩くためには、つま先立ちの姿勢を維持すること、竹馬をしっかり握ること、手と足の動きを連動させることが必要です。中でも重要なのが、足首や膝を伸ばしてつま先立ちになり、前傾姿勢をとることです。そうすることでバランスが定まり、竹馬に乗って歩くことができるようになります。(菊池)



ずっと背伸び！

コンピュータ教室 ペイントのソフトを使って絵を描く活動に取り組んでいます。担当者の描く手本を見ながら、適切なブラシや色を使って、同じ絵を描きます。細かい絵を描く作業は、手本を見る力だけでなく、マウス操作のスキルも求められます。何年も通っている子どもでも、「あー失敗した！」と苦戦しながら楽しく描いています。今後は、画像の加工にも挑戦する予定です。(本村)



あじさい

ダンス教室 ギャロップ、スキップなどのステップ練習を行っています。ツーステップでは、まずは足の運びを覚え、次にステップをしながら手を前と横に出す練習をします。同じ側の手足が前に出してしまう子が多いため、右足と左手に赤、左足と右手に青のシールを貼って視覚的にわかりやすくし、「赤、青」と言いながら行うことで、正しい方の手足を前に出すことができるようになってきました。(益田)



ツーステップの練習

言語プログラム 語彙力を育てるために、「お子さんの発話に文節を1つ足して返す」という働きかけをすることがあります。例えば「いちご！」と名詞だけでお話しするお子さんであれば、「真っ赤ないちごだね」のように、担当者が意味を一つ足して返答します。あまりに長い文にしてしまうとお子さんの理解力を超えてしまうので、「ワンアップ」くらいがちょうどよいとされています。(長田)



「真っ赤ないちごだね」

SST教室 5・6年生クラスでは、描いてもらいたい絵のイメージを言葉で説明し、それを友だちに描いてもらうという練習に取り組みました。絵をはじめ、身近なものを言葉だけでわかりやすく説明するというは、子どもたちが想像している以上に難しいことです。最初は思った通りに説明が伝わらず、みんな苦戦していましたが、練習を重ねるにつれ、相手に伝わりやすい言葉選びができるようになりました。(柳澤)



わかりやすい説明を

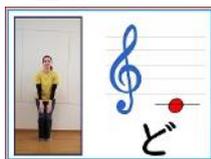


【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

幼児 幼児は、かに、かき氷、ビーチボール、うちわなど、夏を題材にした製作に取り組みました。年長児は、定番の「クジラ」の絵描き歌に加え、少しレベルの高い「かえる」「かたつむり」「かに」などを描いて楽しみました。絵描き歌にすることで、いつの間にか1人で描けるようになる子どもがいます。これからも、子どもたちの「できた」という気持ちを引き出せるように指導して行きます。(高橋)

1年生 体育でソフトブロックを使った活動に取り組んでいます。手に持って運んだり、ブロックの上で担当者の模倣をしたり、前後左右に昇降したりなど、様々な使い方をしています。特に、ブロックに乗った状態で左右に昇降する動きは、動く方向によって先に出す足を変えなければいけないので、身体を上手に動かすよい練習になっています。(本村)

2年生 国語で物語「スイミー」の学習をしています。文章だけでは想像しづらいスイミーの気持ちの描写や、ブルドーザーやドロップなどに例えられた海の生き物などが多く出てきます。絵本動画を観ることでスイミーの暮らす海の様子をイメージし、大型絵本や黒板教材でスイミーを取り巻く仲間や海の生き物の特徴を整理して物語の理解が深まることを期待しています。(壹岐)



手はひざにしてド!



配置を整えて…



ジャンプで移動しよう!

3年生 音楽でハンドサインの練習をしています。膝を叩いて「ド」、両手を開いて「レ」、胸で手をクロスして「ミ」など、ハンドサインを曲に合わせて行って楽しんでいます。繰り返すことで、どんどん上達しています。少しずつテンポをあげていき、上手にできた時には達成感の笑顔でにこにこです。これからもいろいろな曲に挑戦していきたいです。(宮下)

4年生 図工でアジサイを題材に切り紙に取り組みました。はさみでパーツを切り取り、のりで台紙に貼り付けて完成です。アジサイは花の配置が不規則で、パーツの構成が難しいですが、みんな手本をよく見ながら取り組み、どれも素敵な作品に仕上がりました。今後も季節感のある製作を通して、手先の操作性や担当者に注目する習慣を身に付けていってほしいと思います。(柳澤)

5年生 スクールプログラムの体育でステップ体操に取り組んでいます。マット上の1から6までの数字を、言われた通りの順番に踏んでいく体操です。聞く力、見る力、ジャンプしたり足を交差させたりながら体を前後左右斜めに移動させることなど、頭と体をフル回転させなければなりません。繰り返しの練習で、数字の配置を記憶してテンポよくステップできるようになって来ました。今後さらに難しいステップに挑戦していきたいです。(鳥塚)

6年生 6月から、5回にわたって分数の計算を学習しています。子どもたちの能力を見ながら、「分数×整数」、「分数×分数」、「分数÷整数」、「分数÷分数」と段階を踏んで進めています。分数のわり算においては、ハサミで切り分けたパーツを貼りつけて実際にその答えの大きさになることを視覚的に確かめてみるなど、作業を通して分数への興味を深めることも行いました。(草島)

中学生 教育センターでは小学校5年生からスクールプログラムの中で「コンピュータ」の学習を取り入れています。中学生クラスの中には3年以上行っている生徒から今年初めて取り組むという生徒までさまざまですが、それぞれの能力に合わせてタイピング練習を行っています。正しい指の運び方をマスターし正確に単語や文章の入力ができることを目指しています。(藤本)

ラーニングプログラム プリント課題だけでなく、担当者とのコミュニケーションをとりながら手を使って行う作業課題を取り入れています。この日は、担当者が提示した言葉と反対のカードを選び、ルールを通して絵と内容をぴったり合わせることを楽しみました。カードに書かれた言葉について話し合うなど、担当とやり取りが生まれる時間も大切にしています。(壹岐)



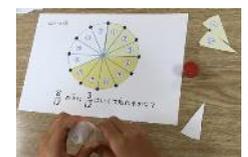
上手に描けたよ!



右に降りるときは右足から!



「スイミーはどこ?」



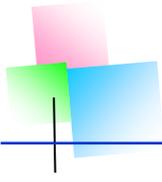
いくつ分貼れるかな?



タイピング練習、集中してます



反対言葉の列車が通ります



言葉と意思

明地 洋典(京都大学教育学研究科准教授)

自閉スペクトラム症の診断基準の1つに社会的コミュニケーションの障害がありますが、コミュニケーションは双方向的なもので、一方に障害や困難があるという言い方は適切ではないはずです。自閉スペクトラム度の高い人の様式とそうでない人の様式が異なり、齟齬が生じやすいということでしょう。

自閉スペクトラムの人たちには文脈によらず言葉をそのまま受けとる傾向があるとされます。一方で、僕たちの実験の結果からは、自閉スペクトラムの人たちも文脈を用いてコミュニケーションを行い得ることも示唆されています。今後、文脈利用の詳細が明らかになることで、日常的なやりとりにおける工夫などに繋がっていけばよいと思います。

人間は同じ言葉をであっても文脈によって別の解釈をします。「私

は赤ちゃん」というエッセイ集の中に出てくるカズちゃんは「キーイ」という声だけで「花子さんに抱っこしてほしい」「自分もそのお菓子がほしい」などの欲求を伝えられます。これは周囲の大人が文脈を考慮して発声の意図を推論できているからであり、この場合「キーイ」は言葉として機能していると言ってよいかもしれません。

夏の実験に何度も参加してくれた子とのやりとりで心に残っているものがあります。その子には発語がありませんでした。ある年、実験の休憩時間に紙に単語を繰り返し書き始め、何度も声を出しながら僕目を見てくれました。共有したいという意味と伝わることへの期待を強く感じました。おそらく僕はそのときその子がそのようなことをすると予想していなかったのです。その子なりの意思表示をずっ

と見逃してしまっていたのかもしれませんが。

子によってそれぞれ異なる意思の表れを察知して汲みとることが僕たちには求められているのだと思います。あらゆる先入観を捨て、その子のふるまい1つ1つがその子にとっての言葉である可能性があることを常に心に留めておく必要があるでしょう。

この会報の名称は‘Heart to Heart’です。それぞれ異なる子たちの意思を掬い上げ、心を通じ合わせるには様々な経験やその子自身との長きに亘るやりとりの積み重ねが必要になるのかもしれませんが。僕も研究者として、養育や教育に関わる方々と同じくheart-to-heartの精神を大切にしていきたいと思っています。



このコラムは4回シリーズでお届けしました。

保護者勉強会のご案内

教育センターのスタッフが子どもたちの支援についてお話しいたします。会員の方はオンデマンドでご覧いただけます。第1回は配信中です。

【第2回】 11月配信予定

「情動・社会性の発達とコミュニケーション支援について」 斎藤 紗知

「脳を鍛える体育教室」 菊池 敦宏

【第3回】 2024年2月配信予定

「家庭でできる生活スキルの練習」 高橋 奈都子

「ことばの発達と子どもに届くことばかけのヒント～単語から2語文へ～」 高槻 美希



武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページをご覧ください

<https://www.musashino-higashi.org>

セミナーのご案内

【第2回】 10月17日(火) 10時～12時

「成人期自閉症児への支援(就労を中心に)～保護者が知っておくとよいこと～」
梅永 雄二 (早稲田大学教授)

【第3回】 2024年2月8日(木) 10時～12時

「子どもの性教育に向けて知っておくと安心できること～家族みんなで考えてみましょう～」
有馬 祐子 (日本思春期学会理事)

※第3回は定員充足につき募集を終了いたしました。